

2024年10月 (No.424)

主な内容とページ

岐路に立つ日本の半導体再興策	1
TSMC の日本での量産開始と効果.....	2
ラピダスの混乱.....	5
ラピダス、課題と挑戦.....	5
ラピダス、成功か失敗か	7
ファウンドリ事業はサービス・ソリューション事業	9
試される商才	10
15年ぶりの自公民過半数割れ(SRL だより)	12

岐路に立つ日本の半導体再興策

わが国の台湾 TSMC 誘致は成功とみられるが、二番手の「ラピダス」は混迷を深めており、新たな取組が不可欠だ。

1. TSMC 熊本工場の半導体量産は年内にも開始、世界規模で展開を始めた TSMC にとって自信と希望をもたらそう。
2. ラピダスは、国がどこまで巨額支援を行うか、内容、予算規模、さらには経営戦略で不透明な面が露呈。わが国半導体の再興に何が求められているのか、基本に戻って見直す必要があるようだ。
3. ファウンドリ、受託事業は、「ソリューション・サービス産業」の面が濃く、問題解決の受け皿、環境変化に伴う既存手法の限界の突破口を提供することなどラピダスに求められよう。

15年ぶりの自公民過半数割れ

衆議院選挙は、15年ぶりに自公民与党が過半数を割り込む惨敗となった。15年前、2009年当時の半導体分野ではスパンション、キマンダの倒産、国内2位と3位の半導体メーカー統合により現ルネサスが発足。この当時の半導体は不景気、悲惨な状態で、産業の存続が問われた時期だった。

その停滞打破をめざし半導体の技術開発プロジェクトが数々展開されたが2000年代中期にこれらはほぼなくなってしまう。それから時間を経て経済安保でプロジェクトが急遽浮上したのが2021年。今度は異次元の支援で、半導体列島再びのブームが再現している。

選挙後の政権は、半導体にどのように取り組むのだろうか。方向としては、力を入れていくようだが、いろいろ影響は避けられない。困るのは、一貫性に欠けることで、半導体は、必要不可欠、人類の発展になくてはならず、それは国力にも通ずることを肝に銘じてもらいたい。業界も政府頼みだけでなく自ら実践することが望まれる。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2024 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2024年10月(毎月1回発行)第35巻10号(通巻424号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2024

SRL Monthly Report

October 2024, No.424

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)